

令和6年9月9日 放課後等デイサービスはらペコ 職員研修⑤

福岡市南区柏原にある「放課後等デイサービスはらペコ」さんの職員研修の講師をさせて頂きました。

「放課後等デイサービスはらペコ」さんは、食べることは生きることをモットーに昼食はもちろん、おやつも大切な一食と考え、旬の野菜や果物を使った、栄養のある手作りのものを提供し「食べるって楽しい」「食べるって幸せ」という想いをみんなで共有することを目指した「食育」に力を入れていらっしゃいます。

全6回のプログラム(2ヶ月に1回)で職員研修を担当させて頂きます。

第5回目の今回は、

「子どもの問題行動の分析と対応」をテーマに講義とグループワークを行いました。

子どもたちの問題行動といえば皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？

例えば、

- 暴力をふるう
- 物を壊す
- 物を投げる
- 暴言を吐く
- 指示に従わず勝手な行動をする
- 相手が嫌がることをしつこく続ける
- 車から降りない(座り込んで動かない)
- 部屋に入らない

等々。

以上のような行動を思い浮かべる方が多いと思います。

「問題行動」は、放っておく訳にもいかず、現状以上に悪化しないように早急に対応しなければいけません。したがって、早急な対応をしようと考え、焦れば焦るほど大人側は大声で否定的な言葉の対応になりがちです。また、社会的に許せない言動を前にすると大人側は瞬時に感情的になり、やはり大声で否定的な対応になってしまいます。

怒りを伴う大声で否定的な対応を行えば、即効性がありその瞬間は問題行動が止まり解決したかのように感じます。

しかし、時間が経つと再び先程と同じような問題行動が出現するので、大人側は「さっき言ったでしょ！」と更なる怒りを伴った否定的な対応を取ってしまう悪循環を繰り返すこととなります。

そこで、今回の職員研修では、子どもたちが問題行動をする「時間」「場所」「状況や背景」「本人の言葉」「推測される理由」など、様々な角度から問題行動を分析していきました。

どんな「問題行動」にも必ず理由やキッカケが存在します。問題行動の根っこにある理由やキッカケを考えず、一方的に注意しても本当の解決には繋がりません。

「問題行動」こそ、その場合限りの感情的な対応ではなく、時間をかけて子ども本人の気持ちを汲み取り冷静に対応しなければいけません。

研修の後半には、様々な視点を取り入れた「問題行動」への新たな対応策や支援者側の改善点などを話し合っていました。

